

○ △ □ 通信

「和」から「話」へ。「和」なくして、「話」はない。そして「輪」が産まれる。

VOL.6

令和2年3月8日

作成：長岡正宏



2018年ご自宅



2015年旧東警察署道場



1995年韓国遠征



1月6日葬儀



2017年多田師範と会食



2014年ブラジル遠征

ご存じのように北平雅一道場長が一月三日に永眠された。急な訃報でした。六十年にわたって広島の地に合気道を根付かせ発展させた功績は大きい。道場長は稽古一筋の人生であった。また技の探求心は人一倍強かった。残された我々も、少しでも道場長の境地へ近づくように一層稽古に励もうではないか。

合気道広島会では「道場長」の称号は北平道場長一代限りとして、今後使用しないこととなった。

「心よりお悔やみ申し上げます」

道心探究

勝海舟は、みずから島田虎之助に弟子入りして、剣術の修行をしています。父親の小吉も、剣客でしたから、自然な成り行きだったのでしょう。

海舟は、島田の道場に住み込み、自ら薪水の勞をとって修行しました。

寒くなると島田の指示に従い、稽古着一枚で、向島の牛嶋神社に行き、石の上に座って沈黙考をし、ついで木剣を振り、また石に座る。それを何度か繰り返して、朝稽古に間に合うように帰ったといひます。

く(略)く

一たび勝たんとするに急なる、忽ち(たちまち)頭熱し胸跳り、措置かへつて顛倒し、進退度を失するの患(うれい)を免れることは出来ない。もし或は遁(のが)れて防禦の位置に立たんと欲す、忽ち退縮の氣を生じ来りて相手に乗ぜられる。事、大小となくこの規則に支配せられるのだ。

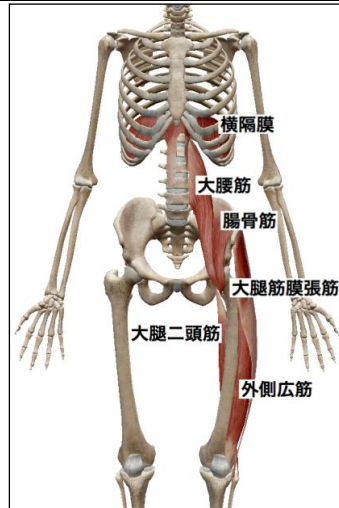
おのれはこの人間精神上の作用を悟了して、いつもまづ勝敗の念を度外に置き、虚心坦懐、事変に処して、綽々(しゃくしゃく)として余地を有(たも)つた。これ畢竟、剣術と禅学の二道より得來つた賜(たま)ものであつた。『氷川清話』

勝とうと思ひこんでしまうと、知らずに気持ち急いでしまい、頭に血が上り、動悸が高鳴り、処置を誤って動きがつかなくなってしまう。あるいは守勢に立たされると萎縮してしまい、相手にいいようにされてしまう。大きいことも小さい事も、すべて、この法則に従って起きるのだ、と海舟は云っています。だからこそ、勝ち負けを度外視して、虚心坦懐にできた。そのおかげで、何度も刺客に襲われたにもかかわらず、難にあわなかったし、大政奉還から江戸城引き渡しの難局も凌ぐ事が出来た、それもすべて剣術と坐禅のおかげだといひます。

※『人間の器量』(福田和也著 新潮新書)より



1月5日の初稽古会は、南区スポーツセンターで開催した。会員の皆様には、大変ご不便をお掛けした。予想以上の会員が稽古に来られ、皆さんのやる気を肌で感じる事ができ非常に嬉しく思った。



○ワンポイント・アドバイス

腕は指先から鎖骨を通して胸骨まで通じる。足はつま先から大腰筋を通して腰椎と胸椎12番まで通じ同時に横隔膜に繋がる。腕の終末となる胸骨と足の終末となる横隔膜の間には『肺』が存在する。すなわち、腕も足も呼吸に影響されていると云うことだ。

合気道で身体を動かすとき常に呼吸のリズムと一体になっていなければならない。それが自然の動きだ！もちろん、道場外の日常生活も同じであることは云うまでもない。

呼吸と一体化した身体の動きを早く定型化することが上達の鍵となる。

～先人の言葉～

合気道は丸く丸く。まあ～るくするんじゃ！ 北平雅一道場長

